



主張

## 新年号に期待を込めて

谷口邦彦

新しい年号が決まりました。年号は日本人の記憶と強く結び付き、その時間感覚が染みついて離れないものです。新年号の発表された今、平成の大きな教訓は、「防災」でした。平成三年の長崎県雲仙普賢岳の大噴火に始まり、平成七年の阪神・淡路大震災、平成十六年の新潟県中越地震、平成二十三年の東日本大震災、平成三十年の西日本豪雨や猛暑等、自然災害の脅威を痛感し、防災意識の高まりとともに、防災教育は重要課題となりました。そして、多くの人が自助共助の大切さを再認識しました。また、国際化や情報化などの社会変化は、今後も一層進展すると予測されます。こうした予測困難な時代の中で、教育が的確かつ迅速に対応していくことは、極めて重要な使命であると考えます。

そうした重責を担う教育会に一つの危惧を抱きます。公立学校教員採用選考の平均倍率は、平成二十九年度の四・六倍から四倍となったというデータがありました。民間企業が売り手市場であることもありますが、教員の過重労働という印象が強く、学校という職場環境に魅力を見いだせないという現状があるように思います。そんな現状も含め、各学校や行政等とで協働しながら、働き方改革の取組が急速に進められています。平成三十一年一月には、中央教育審議会から、新しい時代の教育に向けた学校における働き方改革に関



する答申が取りまとめられました。業務の軽減を含めた勤務体系の見直しをはじめ、学校・家庭・地域との役割の明確化等が検討されています。こうした中で人材育成は、働き方と相まって、喫緊の課題ではないかと考えます。岐阜県においても、教職員の「自ら育つ」意識を引き出し、経験や職層に応じて効率的な研修が進められるように創意工夫をします。県教委が作成した「教員育成指標」では、経験年数等に依拠して、「基礎形成期」「資質向上期」「資質充実期」「資質貢献期」とし、「学習指導」「生徒指導」「経営・分掌」の側面から、教員が成長し続ける姿を示しています。これらを期首面談等で活用し、キャリアアステージを描かせながら資質の向上を図っていくこととするのは、やがて若い世代にあらがえられる教師を育てていくことになるのではないかと期待するところです。

この先どんなに時代が移り変わろうとも、その理念を変化させるのではなく、より深く見つめ、問い直すことよって踏み固め、受け継いでいくことが重要です。そして、変化の速い時代だからこそ、時代に流されるのではなく、確かな理念を見つめて取り組んでいくことを忘れてはならないと考えています。何をすべきかを自らの頭で考え、心で感じ、自らの責任で判断し、自らの言葉で表現し、果敢に挑戦して人生を切り拓いていく子供たちを育てていくことを強く望んでいます。これは、いつの時代、どこの国の教育においても大切にされなければならないことであり、そうした次世代を担う子供たちを育てるといふやりがいや魅力をこそ、発信していかなければならないと強く思うのです。未来に向かう人材を育てるための情報と情熱を共有し、教師のもてる力を向上させるため、多くの知恵と勇気をもって、挑戦していく新たな時代となることを期待しています。

(全日中副会長・前岐阜市立梅林中学校長)